

調査相談(レファレンス)事例紹介 5



Question

三島由紀夫が勤労働員で群馬県にいたことがあると聞きました。
本当ですか？



Answer

三島由紀夫は東京大学在学中の昭和 20（1945）年 1 月 10 日から 1 月 11 日、勤労（学徒）動員で中島飛行機小泉製作所にいました。中島飛行機とは、群馬が誇る飛行機王・中島知久平が大正 6（1917）年に創業した航空機メーカーです。小泉製作所は、戦火の拡大に伴い、海軍機専用工場として当時の小泉町と大川村にわたる地（現在の群馬県邑楽郡大泉町）に建設され、昭和 15（1940）年頃から稼働を始めました。

三島は小泉製作所の調査課文書係（事務室内）に配属され、「調査課文書係の机上面にてしたゝめ申候」と書かれた書簡がいくつも見られます（自伝的小説『仮面の告白』によると、虚弱な学生は事務に携わったそう）。また、当時執筆していた『中世』について触れている書簡には、「日がな一日何といふことなく過ぎ申候…、…書きかけの創作『中世』も事の外はかどりで…」という記述が見られます。

三島は中島飛行機小泉製作所以外にも沼津（静岡県）の海軍工廠や高座（神奈川県）の海軍工廠に動員されましたが、高座工廠でも執筆していたようで、『私の遍歴時代』では「…警報が鳴るたびに…いつも書きかけの原稿を抱えて、じめじめした防空壕の中へ逃げ込んだ。」という記述が見られます。このことについて、三島の父・平岡梓は、「工廠の防空壕が立派で、空襲になってこの防空壕の中に入ると、原稿が実によく書けるとのことで、…帰ってくるたびに「こんなに書けたよ」とその収穫を見せてくれました。」と著書『梓・三島由紀夫』の中で語っています。ちなみに高座工廠での仕事は、工廠で働いていた台湾人の少年たちの世話だったそうですよ。



参考文献

書名	責任表示	出版社	出版年	資料コード
① 三島由紀夫全集 決定版 26 巻（評論 1）	三島 由紀夫／著	新潮社	2003	07949241
② 三島由紀夫全集 決定版 32 巻（評論 7）	三島 由紀夫／著	新潮社	2003	07964950
③ 三島由紀夫全集 決定版 38 巻（書簡）	三島 由紀夫／著	新潮社	2004	07986409
④ 梓・三島由紀夫	平岡梓／著	文芸春秋	1972	01827740
⑤ 三島由紀夫事典	松本 徹／編 佐藤 秀明／編	勉誠出版	2000	08696072

今回ご紹介した他にも調査相談（レファレンス）事例をホームページに多数ご紹介しています。

【群馬県立図書館ホームページ＞調査相談＞調査相談事例・郷土人物データベース】

お問い合わせ：群馬県立図書館 〒371-0017 前橋市日吉町 1 丁目 9-1 電話：027-231-3008